

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立松岩小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 988-0122

宮城県気仙沼市赤岩五駄鱈5番地

E-mail matsuiwa-sho@kesenuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 172名 女子 155名 合計 327名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

「自分と地域の人や自然環境、歴史や産業とのかかわりやつながりが分かり、よりよい社会を共につくっていこうとする児童を育てる」ことをねらいとして、総合的な学習を中心に ESD の実践を行い「問題解決力」「コミュニケーション能力」「他者と協力する態度」を育成したいと考えている。

本校は「地域・環境」「福祉」「防災」を3つの柱として以下のような学習を展開した。

①「地域・環境」に係わる学習

第5学年で、「気仙沼の魅力を伝えよう」をテーマに、地域の海を取り上げた学習を行った。導入として、当地域について知るために、産業や歴史、災害に関する調べ学習を行った。次に、地域で漁業を営む方々の集まりである「松岩浅海漁業研究会」の方を講師に迎え、講話をいただいた。漁業や産業への関心が高まったところで、体験活動と探求活動を行い、その成果をリーフレットにまとめ、地域の魅力を発信した。

②「福祉」に係わる学習

第3学年で「松岩ともっとなかよくなるう」をテーマに学習を展開し、地域の

方々との交流活動を行った。本校では、第2学年で、気仙沼支援学校との交流を行っており、つながりをより深めることをねらいとした。計画の立案に当たっては、支援学校の児童に配慮した交流活動にすることを児童と話し合い、まずは、理解を深めるために支援学校を訪問した。会話したり、担任の先生にインタビューしたりする中で、交流会でどのような配慮をすればよいか、児童は気付きを増やしていた。また、交流会の計画においては、相手に喜んでもらうことを目標に、アイデアを出し合った。交流会では、児童が企画したゲームや音楽を通して親睦を深め、ねらいを達成することができた。

③「防災」に係わる学習

第6学年では、「考えよう 現在の松岩」として、東日本大震災を思い起こし、災害に備える学習を行った。

児童にとって、東日本大震災は入学前の出来事であったことから、インタビューや資料をもとに大変な災害であったことを確認した。次に、図書やインターネットを用いて、地震や津波の仕組みについて調べる活動を行った。児童が、災害の恐ろしさや身を守る方法の大切さを感じていたことから、自分たちにできることを考える学習活動を展開した。リーフレットを作成しての啓発活動や救急救命講習の受講、地域・学校の災害への備えの確認や非常時の炊飯体験を行った。これらのことを通して児童は、知識を高めることや備えをしておくことが大切だと考えていた。



① 水産加工工場の見学



② 支援学校児童との交流



① ワカメの種付け体験



④ 救急救命講習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・福祉のまちづくり読本・わたしたちの気仙沼市・見学や講話でいただいた資料 など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ユネスコスクールのホームページを参考に、“暮らす”の観点でESDを実践し、自然の恵みや災害に関する学習、文化や人とのつながりに関する学習を行っている。

そのために、ESDの学習内容について、「ESD全体計画」として、ねらいや育てたい能力を教育計画に明記するとともに、総合的な学習の指導計画において具体的な学習計画を定めている。また、校務分掌にESD担当を置き、当市で開催している研修会に参加しているほか、校内での検討会等を行い指導内容の充実や工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD担当教諭や総合的な学習の主任となる教諭を中心に、全教員で学習内容の検討を行い、児童の発達段階に合った学習活動になるように努めている。また、児童にとって系統性のある学習になるように、年度末に学習内容の変更や組み替えについて検討を行っている。

実践した後は、留意点や反省事項を総合的な学習の指導計画に記録し、翌年の担当者に引き継ぐと共に、総合的な学習の主任に報告を行い、毎年改善が図られるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価については、各学期が終了した後に反省会を実施し、改善に向けた検討を行っている。また、年度末には改善内容を教育計画に反映させ、次年度以降に繋げている。外部評価については、児童の学習の成果を参観日に公開し、懇談会で意見をいただいている。また、学校評価において児童の姿を保護者や学校評議員に評価してもらっている。

成果は、他者と協力する態度の向上であり、課題は、ユネスコスクールやESDに関して保護者や地域に周知を図ることであると考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学習活動の成果は、保護者に向けては参観日での公開授業や、学校便りを初めとする各種のお便りで伝えている。これらでは、学習のねらいや内容、児童の生き生きとした学習の様子や学習後の児童の感想等を伝えている。また、地域と連携しての学習においては、報道機関を呼ぶことで、学習の様子を地域にも伝えられるようにしている。これらの発信により、児童の学習への意欲や成就感が高まると共に、家庭でも話題として取り上げられることで学習内容の浸透が図られていると感じている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESD の学習を通して、当地域にある水梨小学校、松岩中学校、気仙沼支援学校、気仙沼西高校との交流が行われるようになった。

学校以外の団体では、公民館を中心とした地域協働のネットワークの中で、地域の文化遺産を訪ねる学習や、福祉施設に通所する高齢者との交流、漁業研究会の支援を受けた養殖体験、市危機管理課や消防本部の協力を仰いで学習活動を展開した。さらに、職員向けに、宮城教育大学から講師を迎えての研修会を実施した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

当地域の小中学校と、実践発表会等の機会を通して実践内容や指導計画の交流を行っている。各小中学校の ESD 担当者と情報を交流できる機会となっており、そこで得た情報を教育計画や指導計画の改善に生かしている。

また今年度は、隣接する小中学校と合同で防災訓練を実施し、地域の結びつきが強くなったと感じている。

地域内の学校とは、交流やネットワークを形成できているが、他地域や国外のユネスコスクールとの交流はできていない現状である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動により、児童の地域への理解が深まったと感じている。名勝や産業など他地域に誇れる特色に触れることで、当地域のよさを感じることができた。また、地域の方々を支える福祉の現場を訪問したり、防災を担う方々から指導をいただいたりすることで、地域社会が様々な人々の活躍によって成り立っていることを感じることもできた。

教員にとっても、地域のネットワークを生かして指導を充実したものにすることができ、ユネスコスクールの活動はとても有意義であった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

第3学年 テーマ『松岩ともっとなかよくなろう』 地域の文化財や伝統文化を継承する人々を訪ね、歴史やよさを感じる学習を行う。さらに、支援学校や福祉施設を訪問し、人々とふれあう学習を行う。

第4学年 テーマ『身近な環境について考えよう』 どれだけの電気や水道を使用しているか調べる学習から、事業所の方の講話などを経て、エコな生活を実践する学習を行う。また、防災にも取り組み、防災に関する設備を調べ、非常時の備えについて話し合う。

第5学年 テーマ『気仙沼（松岩）の魅力を伝えよう』 地域の特色ある産業である水産業に目を向けた学習である。フカヒレ加工に関する講話や、水産加工工場の見学、ワカメの養殖体験を行い、水産業への理解を深め、その魅力を地域に発信しようとする学習を行う。

第6学年 テーマ『未来の松岩を描こう』 環境や防災、福祉について3年生からの学習を振り返ると共に、6年生の目で見つめ直しや体験を行い、よりよい地域を目指して地域づくりについて話し合う学習を行う。